

2013 年 9 月 17 日 「天国創建は私の心から」 石川祐司教会長

以下に、訓読のみ言を掲載いたします。

<訓読のみ言>

『天聖經』

地上生活と霊界 第4章 天国 1)天国に対する理解

①天国の所在地

天国は、肉身の世界では探すことはできません。この世界ではありません。ですから、天国の起点というものは、心の中に描く事が実現される、あるところす。そのあるところを探すことによって、天国を迎えることができるのです。

それで、天国は心から始まってくるのです。心のどこからでしょうか。世の中に勝った心から始まるのです。いくら環境的に天国が築かれたとしても、自分の心が悪で、それを描くことができず、そこに動ずることができない立場にいるなら、天国が来ても、その天国は役に立たないものです。それゆえ、天国を迎え得る基盤になるのは、環境ではなく、自分自身です。自分自身が問題です。天国を維持することができる支柱、支持するその支持点とはどこかということ、環境に先立って、自分の心なのです。

それゆえ、自分の心が善にどれほど懂れるかが問題です。歴史的善を懂れながらその善と同行するために、いくら血のにじむような環境があったとしても、それを克服して、いくら孤独な環境の中で闘争の路程があるとしても、それを避けていくのではなく、撃破していくという心で、不変の道を開拓しなければなりません。「その心に一体となり得る体の生活環境を開拓する」と決意して誓うところから天国が始まるのであって、心と体が別々に行動するところに天国があるのではありません。心と体が一体となったところから、天国に向かった前進が繰り広げられるのであって、心と体の行動が分かれるところには天国はできません。そのような観点でイエス様は、心と体が一致し得る内容を持ち、左右に傾く環境を除去しながら前進できる主体性を備えてこそ、天国を迎えるようになるという事実を教えてくださいましたのです。

天国は、他人によって来るものではありません。自分によって来るのです。我々は、墮落した人間なので、自分を否定しなければなりません。自分自ら天国を提示できなくなるときには、他人を通して提示するようになるでしょう。そのようになれば、私は天国を提示した人と一つになってこそ、天国に行くことができます。ついていかなければなりません。絶対的に歩調を合わせなければなりません。彼が東に行けば、自分も東に行かなければならないのです。彼が東に行くのに、自分は西に行く、彼がこのようにしたのに、このようにしてはいけない、という心をもってはいけません。そこに批判があってはいけないのです。(46-23, 1971.7.18)